

# 経営比較分析表

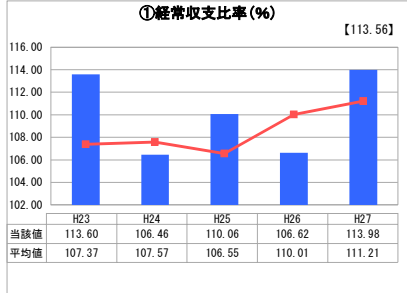
岡山県 真庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	45.58	43.25	4,266

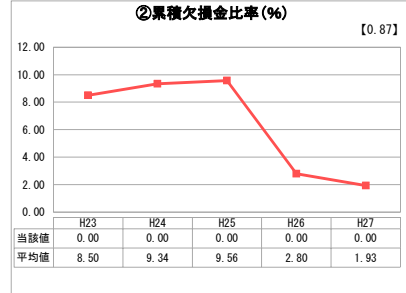
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
47,820	828.53	57.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,532	66.57	308.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

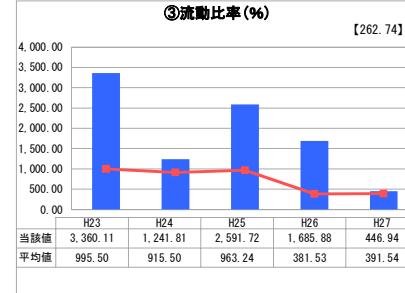
## 1. 経営の健全性・効率性



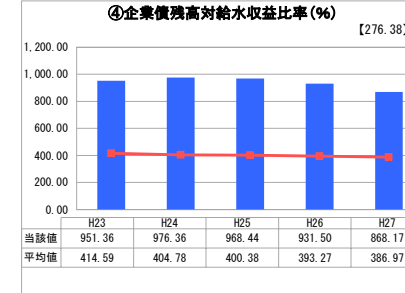
「経常損益」



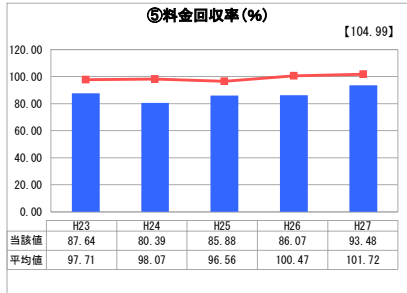
「累積欠損」



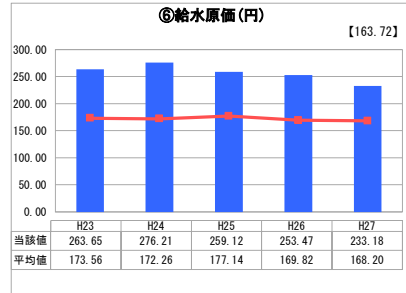
「支払能力」



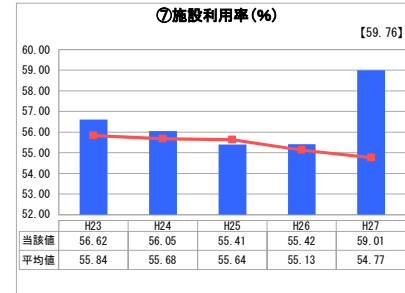
「債務残高」



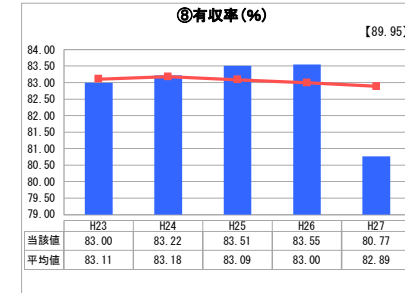
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

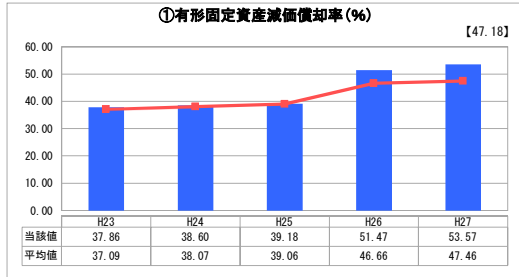


「施設の効率性」

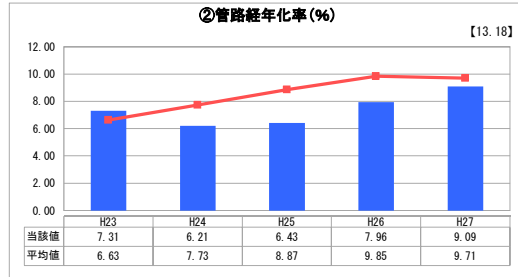


「供給した配水量の効率性」

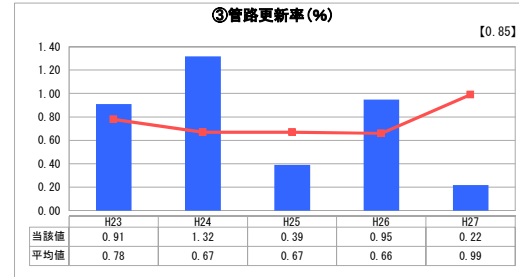
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

真庭市の水道事業は、隣接した合併前の旧町村で配水管の口径や配水池の標高が同じような場合には、水の融通を行いながら、効率的な運営を行っている。しかし、一部では起伏の激しい簡水地区を統合し、ポンプで配水池へ送水しているため、莫大な整備費用や維持費用が必要となっている。

- ①経常収支比率  
過去に100%を割ることがなく113.98%であり、経営努力を行っている。
- ②流動比率  
預金の目減りを抑制するため、起債額の抑制を図っており446.94%となっている。
- ③企業債残高対給水収益比率  
地理的要因により整備費が高くなり、起債総額が多い状況であるが、起債の繰上償還により残高が減り、868.17%となっている。
- ④料金回収率  
平成28年度に市内の料金統一を行うこととしており、93.48%となっている。
- ⑤給水原価  
地理的要因により整備費が高くなり起債償還が多い状況であったため、233.18円となっている。
- ⑥施設利用率、⑦有収率  
平成27年度は漏水事故や寒波の影響があり、施設利用率が59.01%と増加し、有収率も80.77%と悪化となっている。

### 2. 老朽化の状況について

- 投資効果が最大限発揮できるよう予算の範囲内で老朽管改良を優先順位により順次行っていくようにしている。
- ①有形固定資産減価償却率  
みなし償却の廃止に伴い、減価償却費が増加したため53.57%となっている。
- ②管路経年化率、③管路更新率  
様々な事業と連携し、事業費を軽減した事業を行いながら管路の更新を行っており、経年化率は9.09%で更新率は0.22%となっている。

### 全体総括

安心安全な水道水の供給のため、監視システムを導入し、水質事故や断水とならないよう事前に事故防止作業を行っているところであるが、人員削減の中で水道技術者が少なくなり、技術の伝承が困難になっている。

また、収支状況を明確にした上で歳入歳出の適正化を図り、経営戦略を立て事業運営を行っていく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表

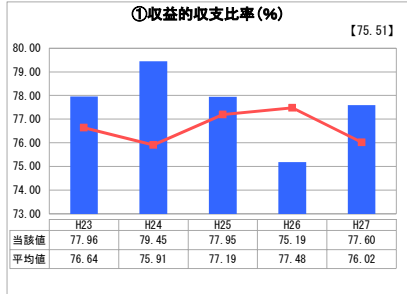
岡山県 真庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	44.36	4,363

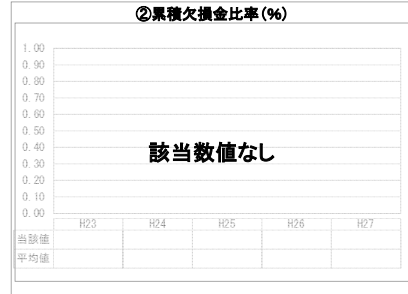
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
47,820	828.53	57.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,057	452.13	46.57

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



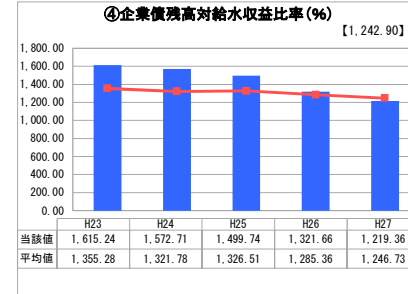
「単年度の収支」



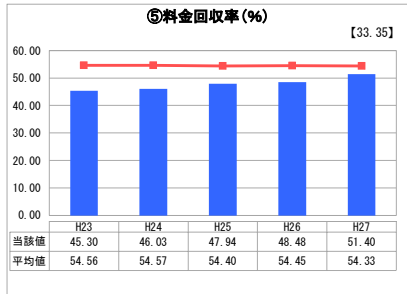
「累積欠損」



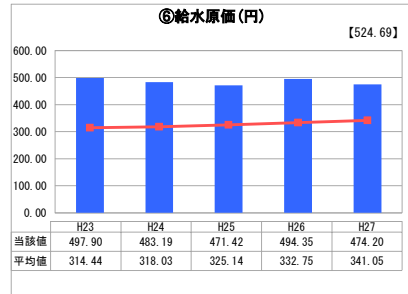
「支払能力」



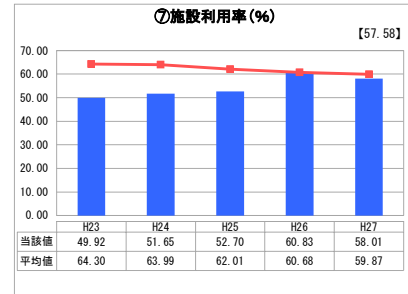
「債務残高」



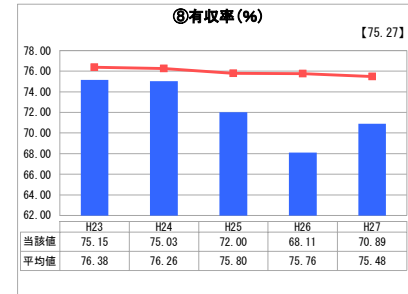
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

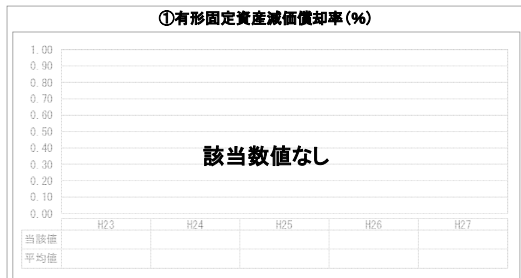


「施設の効率性」

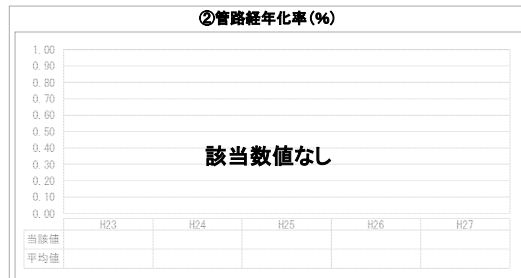


「供給した配水量の効率性」

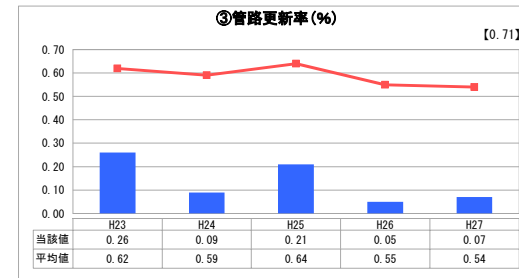
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

真庭市は、合併前の旧町村ごとに効率性のよい施設を整備していたが、合併により、東西に約30km、南北に約50kmと給水区域が拡大された。あわせて起伏が激しいうえに異なる水道施設を統合するには莫大な費用が必要となる。費用対効果を鑑み、水道施設の統合を検討、実施しているが、統合できない数多くの施設があるため、維持管理費用が多額となっている。

- ①収益的収支比率  
起債償還の減により77.6%と少し上昇している。
- ④企業債残高対給水収益比率  
地理的要因により整備費が高くなり起債総額が多い状況であるが、起債の繰上償還により残高が減り1219.36%となっている。
- ⑤料金回収率  
平成28年度に市内の料金統一を行うこととしており、51.40%となっている。
- ⑥給水原価  
地理的要因により整備費が高くなり起債償還が多い状況であり、また平成26年度は漏水修繕が増加したため、474.20円となっている。
- ⑦施設利用率、⑧有収率  
平成27年度は漏水事故や寒波の影響があったが、施設利用率が58.01%で概ね横ばいであるのに対し、有収率が70.89%に上昇している。

### 2. 老朽化の状況について

投資効果が最大限発揮できるよう平成28年度より、老朽管改良を優先順位により順次行っていくようにしている。

③管路更新率  
予算の範囲内で老朽管改良を実施しており、更新率は0.07%となっている。

## 全体総括

安心安全な水道水の供給のため、監視システムを導入し、水質事故や断水とならないよう事前に事故防止作業を行っているところであるが、人員削減とる中で水道技術者が少なくなり、技術の伝承が困難になっている。

また、今後、企業会計の適用を予定しており、適用後は収支状況を明確にしたうえで歳入歳出の適正化を図り、経営戦略を立て事業運営を行っていく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。